

## パネルディスカッション

### 【司会】

私の方から皆様を紹介させていただきます。まず、今回、ファシリテーターを務めていただきます、一般財団法人 渋谷区観光協会 理事・事務局長の小池 ひろよ様

続きまして、パネリストの皆様をご紹介します。左から、  
合同会社 NEWSKOOL 代表社員／CEO 鎌田 頼人様  
株式会社エグゼクティブプロテクション 代表取締役 小林 勝人様  
笹塚ボウル 代表 財津 宜史様  
一般社団法人 日本ミュージック・バー協会 副代表理事 村田 大造様

そして中島様からもパネリストの皆様のご意見・議論を踏まえ、コメントをいただければと思います。よろしく願いいたします。

それではここからは小池様にお任せしたいと存じます。よろしく願いいたします。

### 【小池氏】

では、ここからパネルディスカッションタイムということで、ちょっとこの一列に並んでるとですね、逆Uの字になっていて、皆さんの顔が見えないので、私立って進行してもいいですか。では、立ちながら皆さんの顔を覗きながら、進めていきたいと思っております。

渋谷のナイトタイム観光を盛り上げるにはということで議論をしていきたいと思うんですけども、冒頭、皆さんにも自己紹介いただきたいと思うんですが、ご紹介いただきましたとおり、私も先程の宮本部長と一緒に渋谷カルチャーディストリクト協議会の委員として、今、ナイトタイム観光を盛り上げるにはということで、色々な政策に向けて動いております。一方で、もうひとつ、観光協会の方でも、この渋谷カルチャーディストリクト協議会の推進事業とはまた別に東京観光財団様のご支援をいただきながら、夜のナイトタイムもこの隣にいる鎌田さんと一緒にですね、実は鎌田さん観光協会の観光フェローというのもやっけていただいているんですけども、渋谷ナイトライフガイドということで、新たなマップを作ったりとか、夜間帯のポップアップ的な観光案内所みたいなものを街の中に出現させたりとか、そのようなことも取り組んでおります。今日はよろしく願いいたします。

では、皆様一人ずつ鎌田さんの方から順に、取り組みの紹介がありましたら、ご紹介いただきながら自己紹介をお願いしたいと思います。

### 【鎌田氏】

では僕から始めさせていただきます。

NEWSKOOL という会社をやっています。夜の体験を起点に街とか人の暮らしを豊かにするプロジェクトデザイン会社をやっています。渋谷などを中心とした東京だとか、関西万博期間の大阪もしくは海外のホーチミンみたいな ASEAN の都市でプロジェクトをやっています。と同時に、渋谷区観光協会でも観光フェロー

として活動させていただいております。今日はよろしくお願ひします。

渋谷区での取り組みを説明させていただきますと、小池さんから、今、ご紹介があったように、渋谷の夜の主役がローカルコミュニティであるという視点で、渋谷でナイトライフの特設ページ、マップを東京観光財団さんの助成金で作成させていただいております。

今までですと、スポットがメインだったりとかするんですけども、今回はインバウンドの方々も含めて、どのようなライフスタイルで楽しんでいただけるか、音楽が好きな方は音楽にとか、あとは今年、結構お酒飲まない人増えたりしているので、Sober-Friendly Night っていうセクションを追加させていただいたりしてます。もう 1 個がローカルのコミュニティーにおいて、ナイトカルチャーを作っているプレーヤーの方々をピックアップしたいなという思いがありまして、普段からカルチャーを作っている方から、今年度 6~7 名ほど設定させていただいて、お声掛けさせていただいて、彼らのご紹介と同時に彼らのよく行ってるようなスポットなど掲載させていただいています。後ほど交流の時に確か数枚マップを持ってきてたと思うので、良かったら見に来てください。

一番大事なかなと思ってるのが、やっぱり人と場所からやっぱ夜の熱って生まれるかなと思っていて、それを政策でどう後押ししていくかということかなと思ってます。

事例の 1 個として、海外の Vivid Sydney という、シドニーで行われている光と音楽、食事とアイデアの祭典をお伝えするんですけど、これはいわゆるプロジェクションマッピングだとか、色々なライトアートとか音楽のフェスティバルとか色々なものが混ざったようなものになっていて、観光閑散期の 5 月末ぐらいに毎年 1~2 週間ぐらい開催されているものでして、実際に来場者も 2022 年データですけど、258 万人ぐらいで総収益も 1.2 億ドルぐらい出てるようなものになります。ここで結果面白いなと思ってるのが、一つは、大きなプロジェクションマッピングとかもあるんですけど、結構多世代が楽しめるようなコンテンツも整備されておりまして、例えば橋げたの下でやっているローリングスケートと音楽を合わせたイベントだったりとか、子どもが夜シーソーを漕いだりして楽しめるとかブランコを楽しめるものとか、そういうものがあります。ただやっぱり、光とか音楽の祭典をやればいいわけじゃないかなと思っていて、やっぱりその Vivid Sydney は、やっぱり手段とかアウトプットの結果として生まれてきたものかなという風に思ってます。

一番大事にしていることは、去年シドニーに登壇とかもさせていただいた時に、彼らが言ったのは、街のクリエイターとかコミュニティーのパワーを、どれだけ夜に引き出せるかということそれ自体を都市の文化競争力に変えていって、結果として旅行者が、この夜楽しそうだよねっていうことで来たくなるような街になるということが大切かなっていう風には思ってます。

そのためにシドニーで頑張ってる一つの取り組みの一つが NEON Marketplace というもので、これは、先程宮本さんもおっしゃっていただいたようにモントリオールの方でも、BtoB の商談マッチングとかもされていると思うんですけど、シドニーの方もニューサウスウェールズ政府が主導で、ナイトタイム産業向けの BtoB プラットフォームを開催してます。ググってみてもらったら出てくるんですけど、これは夜に働く産業、観光だけではなくて、ホテルとか飲食、ホスピタリティーも産業に入りますし、テクノロジーとして携わっている方もいけば交通もいっちゃいますし、ギグワーカーで Uber Eats されている方とかも全部一つの産業と見なした上で、そういう方々がどう手を取り合ってビジネスマッチングの機会を生み出すとか、そこに対してこういう補助金があるよとか、こういう形でパブリックトイレの整備を行っていきます

とか、いろいろなものが一つのプラットフォーム内に乗っているというようなものになります。そういう中で、渋谷で遊ぶ人、働く人、住む人、みんなが楽しめるような24時間都市になっていくといいなっていることを考えています。

### 【小池氏】

ありがとうございました。冒頭に紹介いただいた観光協会のナイトライフの特設サイト、本日リリースになりましたので、お時間ある時に、是非見ていただけたらと思います。ありがとうございます。

では、次へ移りまして小林さんお願いします。

### 【小林氏】

エグゼクティブプロテクションという総合警備会社をやってます。元々、警備業で修行して会社を作ったという経緯ではなくて、当時六本木にヴェルファーレというアジアで一番大きなディスコがあったんですね。そのセキュリティをやらせてもらってました。夜の世界から警備に入って今現在、総合警備業をやらせてもらってるんですが、施設警備、交通誘導というのもやってるんですが、もう一つの事業で自治体さんから頂いている繁華街の注意業務、例えば、たばことか違法看板とか、あとは客引きとかそういうのを注意しているような会社です。

元々そういう夜の世界だったので、外国人を雇用する機会が多くて特殊部隊にいた人間とかボリスのOBだったりとか、そういう人間の人間関係、人脈を使って海外視察することが多いので、自分が見てきたロンドンとかニューヨーク、その警備のシステムをこの渋谷で生かせればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

### 【小池氏】

ありがとうございます。村田 大造さんお願いします。

### 【村田氏】

こんにちは。村田 大造と言います。夜の業界長いんですね、僕。40年近くやってます。経営の方もクラブ、ミュージックバー、ライブハウスあと野外の大型のイベントもやってきました。カフェ、和食店とかレストランもいくつかやってきました。実際に自分が大体渋谷・六本木・西麻布を中心にやってきた経験から、後は世界は大体60カ国のクラブのオーガナイザーとも、一緒に遊んだりしながらあちこち回って来ました。そういう視点から今の渋谷を見て思うことをちょっとお伝えできればいいかなと思って、今日は参加させてもらいました。よろしくお願いします。

やっぱりどうしても夜というと、汚いものをまき散らすイメージがあってですね、特に最近のハロウィーンとかカウントダウンとか、元々はもっと盛り上げようとやっていたものが、コロナの中で、梨泰院で、人が将棋倒しで亡くなったりしながら、本当は遊ぶ場所なのに来るな遊ぶなというようなメッセージが行われたりしているんですけども、それも時流の中では仕方ないかなとは思いますが、そういったことをうまく越えながらこの夜を活性化させていく上では、やはり遊ぶ中で出てくるいろんな問題を解決しながらでも、どうしてもお酒を飲んだら暴れちゃう人がいるんですね。でも、そういうところをちょっと寛容に見な

がら、教育もしながら変えていけたらいいかなと思っています。渋谷の夜は単なる娯楽ではない文化であり、経済であり、都市のブランド、そして日本の未来の資産そのものであると、まだまだ夜は活性化できると自分は思ってますし、そういったことに尽力できればなと思っています。

今思うのは、やはりコロナ前から変わった終電、足ですね。夜の交通網と夜間の観光の誘導の導線を紹介していくとか、知らせるってことですよ。あと、文化と政策の分断ということを上げさせてもらってます。

今、先程ちょっと海外の話をしましたけれども、ロンドンとかベルリンとかソウルとかナイトメイヤーなんかも皆さんご存知だとは思いますが、ロンドンなんかはかなりコロナで圧迫されて、あと土地の値段も上がってますね。今は渋谷なんかも上がってますけれども、中心地が上がるとどうしてもそこへ住めなくなる事業ができなくなるって、だんだん外に出てしまったり、あといろいろな制限をするためにセキュリティの金額なんかかなり高くなったりしてですね、みんな苦しんだんですね。ベルリンは古い建物、発電所をクラブなんかにして、いわゆる文化資産として認めるような形をとったりして、そういうものが継続できるようにしています。

僕もコロナの時にですね、VISION というクラブ 300 坪、あと、200 坪ぐらいの Contact というお店をやってました。けれども、コロナでなくなりました。コロナの 1 年目、2020 年の時の補助金は、1 社 1 日 5 万円だったんですね、1 社です。1 店舗ではなくて、1 社 5 万円だから 150 万円ぐらいしか入らなかったの、その年で約 6 億か 7 億ぐらい借入しました。今でもまだ払っている状態です。2 年目からだいぶ変わりましたけれども、みんなで話しに行って規模に応じた補助金をもらえるようになったんですが、1 年目のものをいまだに抱えながらやっている状態です。

渋谷はポテンシャルはすごい高いと思うんですよ。他の都市と比べても、それがまだ生きてないんじゃないか、活かせてないんじゃないかなと思います。これも提案して、ずっとみんなで話してることなんですけれども、夜間の交通ですね、インフラ。やっぱり終電がちょっと早すぎるなど。都市によっては 24 時間動いている。先ほどのロンドンとかベルリンとかもかなり動いています。バスで動かしたりとか、そういったものをやはり動かしたいなと思います。

あとデジタルナイトパスポートと書いてますけども、アプリのようなもので、初めて来た外国人、色々な外国人、中国語、韓国語も英語もドイツも色々ありますけれども、そういった人たちが観光のどんなものがあるのか、可視化したり、安心して来れるような、情報を提供できるようなものはあってもいいんじゃないかなと思っています。

あとは先ほどのコロナの時の支援もそうだったんですけども、規模でいうと 20 坪から 30 坪以上のお店は最初の 2020 年ですね。コロナが始まったのが 2020 年の 3 月か 4 月ぐらいからだったんですけども、2021 年の頭までかなり負担を強いられて、いまだにそれを背負っています。本来なら機材を変えとか、新しい LED 化しているような照明器具に変えとかしなきゃいけないんですけども、そういった資金が出せなかったりするので、そういったものをサポートしたりとか、そういったものもあるといいなと思っています。

あとは若者ですね。今、渋谷にはたくさんこれからを担う人材が増えていきます。今、ここにいる中でも若者と言える人が少なすぎます。僕ももっと増やすべきだとは思っています。そういったことを進めたいなと思っています。これはクラブの数と、夜の市場価値を出しました最近のニュースですけども、DJ ¥ØU\$UK€ ¥UK1MAT\$U がちょうど 1 年前ですか、Boiler Room で撮影が行われて 1 年間で 1760 万回再生、これは

Boiler Room のトップランキング今 5 位に入っています。1 年で入っています。他の (1~6 位の) 方は 12 年、10 年、12 年、3 年、11 年 (前の映像) 大体 10 年クラスでないところまで上がってこないんですけども、日本人のアーティストが 1 年で 1760 万回、1 日大体今 5 万アクセスぐらいのペースで伸びているので、多分あつという間に 3 位ぐらいまでは上がってくるんじゃないかと思います。そのぐらいのポテンシャルを持つてるアーティスト、大谷翔平とか井上尚弥とかと並ぶようなアーティストも出てきているので、そういうアーティストの後押しもしていただきたいなと思っています。

これはクラブやライブハウス、ミュージックバー周りの市場規模ですね。先ほどもちょっと話しましたが、終電に関するところですけど、少しずつ短くなってですね、最低でも、(コロナ前と) 同じぐらいには伸ばしてもらいたいなと。夜間の移動不安とかもう少し可視化できるアプリなりが欲しいですね。日本の国内には先ほどの色々なアーティストを紹介する海外の人達も見るとようなサイトがなくてですね、生まれてはきてるんだけど、宣伝できていない。日本人は作るのは得意なんですけど、売るのが下手というところがあってですね、そういったことも強化していけばいいかなと思います。

Z 世代、今の 20 歳ぐらいの子達の成長がめまぐるしく僕は感じています。感覚的なものですね。僕が今は 60 ちょっとなんですけれども、私の子どもぐらいの世代ですかね、またはそのまた、子供、大体 3 世代ぐらい変わった世代の子達の感性とかが今すごく面白いと思いますので、こういうところにも彼らの意見も入れていけたらなと思っています。大体そんなところですかね。

とにかく渋谷は世界の中でも有数の色んなアートにしても、音楽にしても誇れるものはたくさんあると思うんですね。渋谷というか、日本ですね。日本全体あると思うので、特に渋谷はそういった音楽、ファッションアート、先ほども色々な登壇者の方が出てましたけれども、アートに関して特に弱い感じはしますよね。アートっていうのは余裕がないとなかなか生まれてこないし、それを楽しめないと思うので、我々の世代ぐらいで、そういったアート文化的なものを表に出せるような環境を作り出せていけたらいいなと思っています。よろしく願います、以上です。

### 【小池氏】

村田さんありがとうございます。では続いて、財津さん、自己紹介兼ねて 5 分程度でお願いします。

### 【財津氏】

私、笹塚ボウルの代表なんですけど、今日は京王興産、グループの方が合うなと思って急遽、すいません、あんまりきれいな状態じゃないんですけど、ご紹介させていただきます。私は京王興産株式会社 代表取締役の財津と申します。京王興産では、まちづくりという文脈でミッションを掲げています。私たちのミッションは街の生命力を高めるというミッションを掲げています。健康・文化・経済が循環し、街が自走している状態を目指すために、我々は笹塚ボウルは何をするか、フィットネスは何をするか、というような形で街を考えています。笹塚ボウルの事業役割は、街の交差、多様な年代が考え方、色々な人たちが交差する場所として考えています。ボウリングは、例えば朝からお年寄りの方が 1300 名、毎週ボウリングに来ます。その後、小学生の部活だったり、クラブ事業、その後は会社の交流会・懇親会、その後、若者がライブとか音楽聴きに行きます。このくらい小さい若者からお年寄りまで同じ場所で交流する場所は恐らく他にはあまりないんじゃないかなと思っています。なので僕らのボウリング事業は交差という役割を担っています。

不動産は文脈、ストーリーづくり、今年から始めるのが京王ビルと書いてあるんですけど、住宅を作ろうと思っています。着工は2年後になります。テーマはアーティスト、街の価値を高められるような人たちが住むようなその人たちしか入れないマンションを作ろうと思っています。それは、より多様にするための一つの目的だと思っています。

フィットネス事業をやっています。これは簡単に言うと、24時間フィットネスクラブと女性用のフィットネスクラブやっていて、24時間フィットネスクラブはあまり調子よくなって去年なくしたんですけど、これもそうなんですけど、やっぱりウエルネスという文脈だったり心身、心と体の健康というところの一つ、身体健康というところでフィットネス事業をやっています。

あとは教室ですね、音楽教室をやってます。後は今年は音楽レーベルを立ち上げます。あと、音楽スタジオとかダンススタジオも今後やっていこうかなと思っています。それは笹塚ボウルが3年前に改装して、去年イベント200本、今年も200本音楽イベントが非常に僕らの基盤を支えている事業になったので、ここもちょっと強みに生かすために音楽事業をさらに強化していこうかなと思っています。

そして今年これもちょっと力を入れるところなんですけど、地域事業としてやっぱり街のコンテンツを作ろうと思っています。一つはTea Partyというところで3年前くらいから緑道とか公園でマルシェをしたり、飲食店を集めてイベントをしたり、あと去年は、オペラシティの盆踊りであったり、あと今年水道道路のビジョン構想を計画していて、それを渋谷区だったり、東京都の方に聞いていただきたいなと思ったりもしています。この盆踊りも去年やったんですけど、さっきも宮本さんとかの文脈の観光の一つの魅力になるんじゃないかなと思っていて、ちょっと違うやり方で、また今年も開催できればなと思っています。

僕らは一般社団法人としては渋谷区ボウリング連盟もあるんですけど、一般社団法人として街にどんなコンテンツを創っていくのかみたいなのも僕らやっています。最後は海外事業もやっています。ベトナムのホーチミンにお寿司屋さんがあるんですけど、これはもともとコロナ前、5年前にボウリングを作ろうと思って、僕は2年間住んでお寿司屋さんを始めたのがきっかけなんですけど、やっぱり一つは新しい価値に触れるというか、今まで体験したことないことを海外で体験することが地元の笹塚とか、日本のまちづくりにおいて非常に役立つんじゃないかなんかという意味で、ちょっと挑戦という意味でこの事業をやっています。こういった形でまちづくりというところの役割、僕らがどんなことができるのかということを考えて、東京・笹塚渋谷だけじゃなくて、山梨とか静岡とか、そういったところにボウリング場を中心とした街づくり、僕らにしかできない人を集めたり、交差させたり、コンテンツを作ったりするということで、これから全国に行けたらいいなと思って、来年から頑張ろうかなと思っています。よろしくお願いします。

## 【小池氏】

皆さんの自己紹介を5分で済ますというすごく難しいことをお願いしてしまった後、恐らく皆さんもとお話を聞きたいというところがあると思うんですけども、ぜひ交流会の時間に個別にお話しをしていただければ幸いです。では、ここから少しくロスディスカッションといえますか、それぞれの専門分野、力の強いところが得意分野というものがあるかと思いますが、少しお話を聞いていきたいと思っています。

まずは鎌田さん、Vivid Sydneyの話がたくさん聞かせていただいて、昨年、シドニーまで行って登壇もしたと思うんですけども、資料の方でも紹介してもらったんですけども、我々渋谷カルチャーディストリクト協議会が構想としてやろうとしていることにも似ているし、一方で吟味すると SHIBUYA CREATIVE

TECH 実行委員会でやっているイベントも似ているし、ああいったものが今後、私たちも渋谷でアップデートしていけたらいいのかなと思っているんですが、クリエイターをどうやって引き出していくか、先程のお話の中で Vivid Sydney でもクリエイターを引き出すみたいなことがあったんですけども、どうやって Vivid Sydney の皆さんは、それらの方々を引き出そうとしているっていう取り組みの背景、もし御存じだったら教えていただきたいなと思います。

### 【鎌田氏】

ありがとうございます。すみません、先ほど長々と喋っちゃいました。Vivid Sydney はその母体としてニューサウスウェールズ州の中にナイトタイムを扱う中間団体みたいなものがあります。一番みんなが大事にしているのは、クリエイター個人・単体だけでなく皆さんクリエイティブマインドを持っているよね、というバイブスを持っていて、その中でみんなでアイデアを出し合ったりとか、皆さんの力を引き出しながらどうやっていいものを作れるかということを考えています。で、それが一番はやっぱり出るのがディストリクト、地区単位によるもので、例えば、先ほど財津さんは笹塚をレペゼンされていると思うんですけど、そのエリアをどうよくしたいかっていうバイブスを持った人たちが、もうめっちゃめっちゃたくさん来ていて、どういう風にそこをよくしたいかっていうことをデイリーで会議しながら新しいことをどんどんやってる。僕も登壇しにいった時にもオーギーハット、カウボーイハットみたいなをかぶった、いかついおじさんが出てきて、なんか「さっき君が喋っていたこのあれはなんかどうだっと思うんだよね」みたいな議論がめっちゃめっちゃナチュラルに発生することがありました。そう思うと、誰もが参加しやすいイベントになってるってことですね。特別な何かこうナイトタイムエコノミーとかと言っていないし、一般市民も老若男女が楽しめるようなものになってきているから、色々な人とのクロスがあるのかなということですね。プロジェクトも然り、そこにいるアーティストたちが“なんかこういうのやりたいよね”みたいなところを吸い上げたりしながら、一緒に作っていく感覚が受発注とかコンペっぽい感じじゃないことは、結構あったなという気はしています。

### 【小池氏】

わかりました。ありがとうございます。

小林さんも海外の事例を先ほどもご紹介いただいた時にニューヨークへ行かれていたりとかパープルフラッグを視察に行かれたりとかすると思うんですけども、やっぱり大きな違いというのが、BID (Business Improvement District) と言われるようなものが、この渋谷においても必要なんじゃないかろうかという説はありますが、これを導入することの難しさを障壁もあると思うんです。一方で、ハロウィーンもそうですけども、警備とか安全・安心というものが大前提になった時に、渋谷でどのように海外もそれらの都市と比べて推進していくと、一歩踏み出すといいと思いますか。

### 【小林氏】

そうですね、自分がロンドン、ニューヨークへ視察行ったのは2年半前ぐらいの話なので、今現在AIがかなり進んできている。セキュリティー業界もAI プラスセキュリティー、これを考えていかななくてはいけない。それプラス AI カメラを導入しても、結局は人間が行って対応するので、その人間のクオリティー、

全部人ではなくて、AI カメラと人で人のクオリティーを上げて対応する。その時にですね、パープルフラッグ、ロンドン、ニューヨークの我々がやっているような街のパトロールをしている警備会社があるんですが、「権限」を持ってるんですね。タイムズスクエアのセキュリティーなんかは銃以外の警察が持っている権限をもらってる。ロンドンのピカデリーサーカス辺りをパトロールしている人間は、警察の特殊な教育を受けた人間は人を拘束できたりとか、尋問したりとか、違法な車を動かす権利を持っている。ロンドンあたりだと警察とその街のセキュリティーの役割分担というんですかね、緊急性とか事件性が低いものは、街のパトロールの人間が権限を持って対応してて、緊急性が高い、事件性が高いものは警察が対応する、そんな役割分担がされているようですね。

### 【小池氏】

渋谷の場合だと、何かある時、渋谷警察署ですとか、警視庁の方のご協力があって、あと小林さんのような皆さんに支えられて街の安全が担保されていると思うんですけど、その役割を超えて例えば、街の方々が一定のパトロールをしている方々はたくさんいると思うんですけども、その権限委譲っていう意味で、その役割の期待しすぎなところと実際、何か起こったら誰が責任取るんだみたいな、そういう問題もあわせて生じるのかなと思った時に、責任の所在とかあんまりそこは（海外では）突き詰めないんですかね？

### 【小林氏】

そこはちょっと聞いて来なかったですが、役割分担がされているので、これちょっと話はそれるんですけど、最近アメリカなんかの救急システムっていうのはAIが導入されていて、緊急性が低いものは全部AIが対応で、イタズラとか間違いもAIでその先緊急性が高いものだけ人につなげるみたいな、そういうことがもうかなり進んできているみたいです。

### 【小池氏】

先程の大造さんのアプリのお話しにも紐づくかもなんですけど、渋谷なので、テックに明るい企業はたくさんいるので、ナイトタイムにおけるAIの開発を声をかければ、エントリーしてくださる、手を挙げてくれる方も、もしかしたら出てくるかもなところにも期待できたなど。

### 【村田氏】

AIも大事ですけど、やっぱりフィジカルも大事ですよ。実際の抑止力としては。ロンドンなんかだとクラブのライセンスを取るときに、セキュリティーは義務付けられるんですよ、何人入れなきゃいけないとか、規模に応じて。だから日本の場合はそこも曖昧で入れなかったり、入れれば抑えられるものが抑えられていなかったりもするので、事業者側にそういうリスクを背負わせるということも海外ではやられています。

### 【小池氏】

ロンドン・パリ・ニューヨークに続く渋谷区にする為には、他の都市をもっともっと自分たちも目で見て、学んでそれをどうやって渋谷で活かしてアップデートしていけるかっていうのを、それこそAIに聞くので

はなくて、自分達が目で見えて体感したものを実装させるみたいなことも、必要なんじゃないかなと感じます。

財津さん、今日は急遽資料をご用意くださってうちの実は評議員というのも担ってくださってるんですけど、実は財津さんの会社がここまでいろんなことを今してるっていうことを私も恥ずかしながら色々アップデートをきてて、いい機会になったなと思ってんですけど、やっぱ財津さんって本当にすごいと思うのは、「自分ごと」にすることを会社でもやるし、街の人も巻き込むし、その巻き込み力っていうのが半端ないなと思ってんですけど、笹塚ボウルもそうなんですけど、今若者って言われるような、笹塚ボウルで、夜ナイトミュージックを楽しみに来るような子たち、もしくはそれを仕掛ける側の子たち、たくさんいつも触れてると思うんですけど、そのカルチャー、彼らにとってのカルチャーに対する感度っていうのはどんなどころから拾ってきているとかって何か感じるものがありますか。例えば、それは SNS なのか、または笹塚ボウルという場がもうあることがわかっているから、みんなそこにアクセスしに来るのか。

### 【財津氏】

実は去年半年かけて笹塚ボウルに来ている人たちにアンケートをとったんですよ、社員 10 人ぐらいで。なんで僕らのところに来るのか、それを僕たちをもう少し理解しようと。その時に 100 人ぐらいの若者に聞いたんですけど、まず 8 割がボウリング場という感覚よりもそのデートとか僕こんなところ知ってるぜ、とかイケてる人たちが集まっているから行こうよ、みたいな、ボウリング場としての誘い方じゃなくて、イケてる場所として誘われてるってことを気付いたっていうのはすごく大きくて、多分それはずっと会社から反対されてたんですけど、クリエイティブというか、店内のポスターにしても、デザインにしてもお土産で買う僕らの T シャツにしても、そういった内装とかクリエイティブとかデザインっていうところに僕ら凄く結構投資しているなと思っているのでそういったところから、もしかしたら選ばれているのかもしれないなと思ってます。

### 【小池氏】

宮本部長のお話にもありましたし、中島先生おっしゃっていたと思うんですけど、渋谷の観光ってクリエイティブ産業の強さとか、アーティストの多さとか、そういうものの先に観光資源になっているんじゃないのかな、というのは非常にとても感じます。もちろん美味しいご飯があるとか、美味しいお酒飲めるとか、楽しい音楽をわちゃわちゃとみんなで聞ける場所っていうのもあるんですけど、その根底にあるのって、クリエイティブ産業や、テック産業の強さもあるのかなという風を感じていて、大造さんのお話に触れていきたいと思うんですけども、私すごく興味あるなと思ったのが、文化の輸出とか成長投資、あと若者の政治参画みたいな今、20 歳ぐらいの Z 世代の子たちというのは、夜のナイトタイムを変えたいという意志を持った子たちも多いってということですか？

### 【村田氏】

夜のナイトタイムを変えたい、みんなが思っているわけではないんですけど、例えばこういうところ（本日のフォーラムのような場所）に僕たまに誘うんですね、何人か。その後大分変わるんですよ、興味を持って。自分はこういうことを思っている、こういうことを言いたい。今の政治もそうだと思うんですけど、最

近増えてきてますよね。前は、言っても変わらない、どうせ無駄だと、でもこういったところに参加して、言えば変わるんだっていうところにやっぱり気づきと、思うところがたくさんあるみたいで。

### 【小池氏】

中島先生、街づかい戦略とかそういった当事者というか、若者たちがいない中で議論するのっておかしくない、みたいなことはこれまでもあったと思うのですが、そういう時に、大造さんの周りにいらっしゃる若い子たちとご一緒に議論できる場とかあったら（よいですね）。

### 【中島氏】

そうですね、街づかい戦略を作っていく時に使い手の目線を大事にしようという開発事業者側の想いは出てきてるんだけど、じゃあ、それは使い手じゃないわけです。やっぱり作り手なんですよ、器を作る側で、そこがやっぱり使い手とちゃんと連携するってことが実はできているようで、今までもできていなくて、そこを大事にしようっていうのは結構大きな方針転換だったんですけど、じゃあそれを具体的にどこでコミュニケーションの回を作れるのかっていうところはまだまだ課題があるなと思っていたので、今日こうやってたくさんの方とお知り合いになれて本当に良かったです。

### 【小池氏】

今日、登壇いただいている皆さんが議論をすると、めちゃくちゃ色々なバーティカルな議論が活発になって、新しい渋谷のナイトタイムの観光を盛り上げるにはっていう今日のテーマの解が、何か一つでも出てくるような気がしました。というところで、時間になってしましまして、最後に皆さんから一言ずつこのテーマこの渋谷のナイトタイム観光を盛り上げるにはと考えた時に一言ずつ、いただきたいと思うんですけど、では、鎌田くんから。鎌田くんだったらどう思うか。

### 【鎌田氏】

今日はありがとうございます。渋谷のナイトタイム観光を盛り上げるには、難しいですけど、みんなそれぞれの持っている、自分の居場所とか自分の持ってきたカルチャーとか、そういうものを発揮しやすい場所、選択肢があるということが渋谷の面白さだったりすると思うので、それぞれ大事にすることをどうサポートを皆さんでしていけるかということを見ると、面白くなっていくんじゃないかなと思ってます。

### 【小池氏】

はい、小林さんお願いします。

### 【小林氏】

どうしてもですね、安全安心というのは後回しになりがちで、やっぱり賑わいの前に大前提に安全安心がないといい街づくり、価値のある街は作れないと思うので、是非安全安心を第一にまず考えてもらえたらと思います。

**【小池氏】**

力強いコメントありがとうございます。はい、財津さんお願いします。

**【財津氏】**

僕は、盛り上げるためには、役割の明確化じゃないかなと思っています。今の話は渋谷の中心の話をしてますが、笹塚、幡ヶ谷、初台、代官山、色々な街があって、その街それぞれの役割があって、なので役割の明確化が必要だと思っていて、役割の明確化をするためにも、目的の明確化がないと役割の明確化がないので、何のためにやるのか、夜を何のためになぜやるのか、その明確化で役割の明確化が決まってくるので、僕らが何をやるのか分かってくるような気がするので、それがこう綺麗に可視化されてると僕らもやりやすいなと思っています。

**【小池氏】**

ご意見いただいたようでありがとうございます。はい、大造さんお願いします。

**【村田氏】**

これから、AIが出てくることでだいぶ変わると言うんですね、色々なものが。先程の自動運転もそうだし、お店で働く例えば洗い物とかただ下げるだけだったらロボットでもいいかもしれません。ただ、やっぱりそこに人がいなくなってしまうたら、人間が人間と触れ合って与えられるものって、やっぱり愛かなと。愛情というか、愛があるから色々なものが生まれてきているし、アートは遊び、遊びがあるから、アートが生まれてきて、遊ぶだけの余力があるからアートも生まれてくるし、都市の中にも点々と中に生まれてくると思うんですよね。先程のシドニーとかバンクーバーなんかの話もありましたけれども、あれは本当に根付いてるんですよね、街の中で普通にその辺の壁にみんなが描いたりして、それが名所になったりしてだから自由なんですよね。その自由に表現することに関して寛容なんですよね。それを汚いとかゴミのように扱ってしまえば、そのようになってしまったり、だから遊びやそういう寛容な心、人が人に対する愛とか思いやりとか、そういったものを重視していけるような世の中になってくれたらいいかなと思います。

**【小池氏】**

はい、ありがとうございます。中島先生、総締めでお願いしたいと思います。

**【中島氏】**

3つぐらい、今日思いました。今日の議論を伺っていて、カルチャーディストリクト協議会が今後、解像度を上げていって行って、政策的なメニューもかなり出てくるのではないかなと思うんですけど、やはり政策がメニュー化されて出そろって解像度が上がっているだけだと、どこから仕掛けていくかというところがないと効果的な政策にならないんじゃないかなと思っています、その重要性、どこからどういうストーリーで渋谷の街を盛り上げていくのかっていうところをさらに明確化する必要がまたあるなど、解像度が上がれば上がるほどあるなという風に思いました。その中でやっぱり取り組んでいかなきゃいけないことは規制緩和だと思うんです。規制緩和が非常に日本のこうした街づくりの中でネックになっていることは間違

いないんですが、規制緩和するぞということだけ言ってしまうと、緩和の対象になる人とならない人という分断が大きいので、必ずここで足の引っ張り合いが起きてしまう。だから、何のために規制緩和をするのかというところのストーリーをちゃんと社会認知されていくような形で応援されていくようにしていくにはどうしたらいいかという戦略とストーリーがすごく改めて大事だなというふうに思いました。今日の話も喜べる人とそれによって困る人みたいなもの間をどうやって作らないで、何のためにこれを進めていくのかっていうのがやっぱり規制緩和をやっていく時に考えなきゃいけないなという風に思いました。

あと、最後は、こうした議論の場が充実していくことがすごく大事だと思うんですけど、その中でやっぱりプレイヤーイニシアチブがやっぱり非常に大事で、そことの関わりをどういう風にこの場としてデザインしていけるかってことがないと、やっぱりどんなにいい政策を作っても空回りするなと思うので、今日、先ほど村田さんがおっしゃっていた若い人たちとの接点とか、そこで実際活躍したい人、一旗あげたいと思っている人たちをどういう風に応援できるのかとか、そこに繋げていけるのかというところがないと、やっぱりこれもすべってしまうなと思うので、そこもすごく大事なポイントになるなという風に3点思いました。

#### 【小池氏】

素晴らしいおまとめをありがとうございました。私も今日録画してくださっているので、もう一回見てですね、次の今後の渋谷の観光もそうですけども、この渋谷カルチャーディストリクト構想をしっかりと1年、皆さんと一緒に作っていけるように頑張っていきたいと思います。

では、この後、交流会もありますので、今日は渋谷の観光を盛り上げるにはというテーマでお話させていただきましたけれども、ぜひ違う地域の皆様とも渋谷の事例のみならず、色々意見交換もできればと思います。登壇者の皆様、本日はお時間いただきましてありがとうございました。